平成２８年度第５回市民と市長の対話集会

市長と語ろう！
ほっとミーティング

テーマ　ひらつかの「子育て・高齢福祉・安心安全」

開催結果報告書

1　開催日時　平成２９年（２０１７年）２月１５日（水）

午後７時から午後９時まで

2　開催場所　旭北公民館　２階　集会室

3　参 加 者　９人　傍聴者　１５人

ほっとミーティングの様子

４　市長あいさつ

皆さんこんばんは。本日はお忙しい中、「市長と語ろう！ほっとミーティング」に御参加いただき誠にありがとうございます。

ほっとミーティングでは、各地域をまわらせていただき、皆さんの貴重な御意見や御提案を伺っているところです。

現在、全国的に人口が減少しており、行政運営が継続できるかどうか厳しい時代を迎えています。本市でも、平成２２年１１月の２６万８６３人をピークに人口が減っている状況です。国からは、自治体が存続するための戦略をたてるようにとの指示がありました。

そこで、平塚市は今後目指すまちづくりの計画として、新たな総合計画「ひらつかＮｅｘＴ」を策定しました。計画の重点施策を、「強みを活かしたしごとづくり」と「子どもを産み育てやすい環境づくり」、「高齢者がいきいきと暮らすまちづくり」、「安心・安全に暮らせるまちづくり」として、このほっとミーティングでは、「子育て・高齢福祉・安心安全」をテーマに、市民の皆さんから率直な御意見を伺って市政に反映したいと考えますので、よろしくお願いいたします。

また、本日はできる限り私からお答えさせていただきますが、中にはこの場でお答えできないこともあるかと思います。その際には、事務局から担当課への確認を行い、皆さんにお伝えさせていただきます。本日はよろしくお願いします。

5　主なミーティングの内容

①安心安全について

【参加者】

大規模地震が発生し各地から支援物資が届いた際、その物資をどう配分していくのか伺いたい。

【参加者】

昨年、河川の氾濫があり、床下浸水の被害を受けました。この地域は昔から大雨が降ると、すぐに水が上がると言われています。河川工事で砂利を除去せず川底が高くなっていると、また被害が発生するのではと不安になります。

【市　長】

地域の防災活動に、関心を持っていただきありがとうございます。

まず、備蓄の件です。支援物資は、届くまでに時間がかかることがあるため、市では、それぞれの御家庭で、一人当たり３日から１週間分をめやすに飲料水や食料の備蓄をしていただきたいと考えています。被災当初は自助と共助の意識を持って対応しなければなりません。

もちろん、御自宅が被災に遭った際は避難所へ行く必要がありますから、避難所の備蓄もしっかり整備する必要があります。市では、小中学校など５５か所を避難所に指定しています。それぞれの避難所に備蓄がありますが、当然それだけでは足りません。応援の物資が届いた際は、それをどう配送するかが課題です。

昨年に発生した熊本地震では、近くまで物資が届いているにも関わらず、実際には避難者の手に届かない事態が発生しました。どう対応すれば適量を効率よく配送できるか仕組みを考える必要があります。例えば、運送のノウハウを持つ宅配業者を活用し、迅速な配送が可能かどうか検討していくことも選択肢の一つです。そのためには、情報通信網を整備しなくてはなりません。災害対策本部と各避難所とのやりとりを密にすることで、的確な計画ができると考えています。そうした点について、現在検証しているところです。

【参加者】

例えば、５，０００人が避難して、物資が３，０００食しか無かった場合、足りない２，０００食が届くまで配らないのか、それとも、足りなくてもすぐに配っていくのか。

【市　長】

数が足りるまで待つのではなく、現実問題として、必要としている人がいるので、随時送れるものを送っていけるようにしたいと考えています。

【参加者】

防災面で心配なのは、障がい者の方や一人暮らしの方の避難です。支援を要する人たちは多くいますが、実際に支援してくれる人が少ないので、問題だと考えます。

【市　長】

平成２８年８月現在、避難行動要支援者は約４，０００人です。それに対して、支援ができる人は約１，３００人です。この差をどう埋めるかが大きな課題になっています。本来であれば、自治会の自主防災組織に依頼し、要支援者と支援者のマッチングが出来ればいいのですが、これが出来ていません。現実問題として、すぐに解決策を講じるというのは難しいのですが、この状態は改善させていかなければなりません。

ただ、行政がすべてを支えることは困難であるため、地域は地域で守っていく、地域において支援をする人を確保していく、という意識付けについて、御理解をいただきながら進めていく必要があると思います。

【参加者】

各地域の自治会それぞれで、防災意識に差があると感じます。防災意識の高い地域の取り組みを、広報ひらつかに掲載することで、他の地域にも良い影響を与えられるのではないでしょうか。

【市　長】

実際に各地域において、防災意識に差があります。呼び掛けも含めて、意識付けをしていかなければならないと考えています。

障がい者の方など特に支援を要する人の避難先については、地域防災計画において、協定を結んだ学校や福祉施設を指定しています。こうした避難先があることを御理解していただく必要があると考えています。

河内川の氾濫による水害は、河川（金目川）の水量が吸収しきれないことが大きな原因です。河川（金目川）を管理している神奈川県に対しては、浚渫工事をして流れる量を確保してほしいと繰り返し伝えています。実際に住んでいる人たちの目の前で危険が迫るわけですから、なんとか浚渫拡張整備を早急に進めていくよう、引き続き働きかけをしていきます。

【参加者】

自治会がその地域の中で、支援を要する家族の状況を把握し、マップのようなものを作成して情報共有をしている事例はあるのでしょうか。

【市　長】

自治会で細かく対応しているというのはないと思います。市全体でみると、公民館では、人材バンクの登録制度があります。将来的には、各地域において、専門知識や専門技術のある方を把握し、課題解決に結びつけるような連携が出

来ればといいと考えています。

【参加者】

自治会の役員を務めていますが、まずは自分の身の安全を確保したうえで、支援を要する人への救援活動をしていく必要があると考えています。自治会では自主防災組織を作り、年１回の防災訓練を実施しています。役員全員が、最低でも要支援者の名簿を把握することで、被害を最小限に食い止めることができると思います。

【参加者】

自治会や民生委員が積極的に支援を進めるためにも、要支援者の情報が必要なのですが、市に相談しても、個人情報を盾にされてしまい、きめ細かな支援まで踏み込めません。

【市　長】

国としても、東日本大震災を契機として、災害対策基本法を改正し、要支援者に関する情報を提供していこうという流れがあります。しかし、実際の運用となると、個人情報保護という観点から、難しい部分があります。

障がい者団体の方々と話をする機会がありますが、個人から地域への情報発信をしたうえで、連携をしてほしいと伝えています。

②高齢福祉について

【参加者】

日向岡は交通の利便性が低く、車が必要です。高齢になり、運転の不安があるので、車を手放すことを検討していますが、車がない生活は不安です。バスなどの公共交通機関が充実していれば、病院に直接行くこともでき心配はなくなります。最近では、引っ越しする人も多くなっています。

【参加者】

車の代行運転をする市民活動の団体もあるので、調べてもいいと思います。

【参加者】

身体は動かさないと衰えていきますから、運動が大切です。身近に運動できる施設があるといいと思います。また、ジムに気軽に行くことができるように、補助金を出してほしいです。要介護を予防するためにも、予防的な分野で予算を使ってほしいと思います。

高齢者のごみ問題も重要です。物理的にごみを捨てることができない高齢者が多くなっており、対策が必要ではないでしょうか。

【参加者】

身近に運動ができる施設では、各公民館で多くのサークルが活動しており、お金を掛けなくても気軽に参加できると思います。

【市　長】

健康づくりをとおして高齢者を支えるものとして、各地域に町内福祉村が１７か所あります。寝たきりを防止するための健康体操も実施しています。また、本市では、全国的にも珍しく、各小学校区に１館ずつ公民館を設置しています。大人の生涯学習の場、健康づくりの場として、利用いただければと思います。

健康づくり推進条例やスポーツ推進計画を作り、スポーツをしながら健康を維持していくことを推進しています。

高齢者のごみ問題に関連してですが、老年人口の増加や自治会によるごみステーションの維持管理の困難性などから、戸別収集についても検討しているところです。また、不燃ごみや有害ごみを民間への委託に切り替えてより効率的に市民サービスを展開できる形を検討しています。ごみステーションから小型家電を分別収集することで、資源化を進めていきます。

【参加者】

毎年、春と秋に平塚市で、全世帯参加型で実施しているまちぐるみ大清掃について、要綱や要領を見直していただきたいと思います。子どもから大人まですべての人たちが関わるように展開できるのが理想です。美化活動をとおして、共助の意識を育んでいけるのでは、と考えています。美化意識の向上により、倫理観や公衆道徳の向上も培われると思います。その際、回覧のチラシについては、もう少し熱意を込めた形で周知してほしいです。

また、３５年前に平塚市民の生活の指標として、市民憲章が作られています。平塚市において、人を育てていくという意識をもつことが求められていると思います。

【参加者】

現状として、地域の方たちが高齢化しています。まさに、高高共同体になっています。高齢になると、外出しにくくなるため、その改善策として、福祉送迎サービスの活用があります。サービスは会員制で、会員費用を払うと、タクシー利用の半額程度で利用できます。ただし、近い距離はタクシー利用よりも割高になります。そこで、市が車を用意し、福祉村に置いて利用できるようにしてみてはどうでしょうか。ただ、高齢者の運転は不安があるので、運転手の配置も必要かと考えます。

また、空き家を借り上げて、そこを集会所にし、体操や語らいの場にしてもいいのではないかと思います。高齢者の生きがいを育む場として、集まれる場所を作っていく必要があるのではないでしょうか。学校の空き教室や地域の自

治会館、空き家のようなところを整備していくようなことも考えられます。動ける高齢者の活躍の場所があるといいですね。生きがい事業団の地域版のようなものがあればいいと思います。

【市　長】

まちぐるみ大清掃については、年代を超えて、子どもから大人までが参加をして、地域を愛する心、自分たちが取り組むという意識を醸成するために、要綱等を見直していくなど検討していきたいと思います。担当課に意見があったことを伝えます。本市の事業において、皆さんで取り組みましょうという位置付けは作っていません。大きなヒントをいただきましたので、是非考えていきます。周知をするチラシについても、熱意を感じることができるものを検討していきたいと思います。

市民憲章については、自然を愛する、勤勉に働く、地域参加をするなど、素晴らしいことが謳われています。多くの人に知ってもらえるよう、目に触れる機会を増やしていければと思います。

空き家率は、他の市町村と比べると低いのですが、少しずつ増えていると認識しています。昨年、各自治会の御協力のもと空き家に関する自治会アンケート調査を実施させていただいたところです。ただ、空き家は個人の資産であるため、市が強制的に動くことが難しいものです。どう活用していくかを引き続き検討していくことが必要です。

現在の超高齢社会の中で、地域の住まう形として、地域それぞれで、どうきめ細かな支援が提供できるのかということを、地域包括ケアを含めて、考えていかなければなりません。地域において、身近に支援を受けられる場所、高齢者が集まれる場所づくりも重要です。

地域における交通の利便性については大きな課題です。運転免許証を自主返納した後も、日常生活に支障がないようにすることが必要です。地域全体の交通体系を見直していくことが求められていると思います。乗り合いのバスや送迎サービスの活用が一つであり、交通政策課等の担当課で検討しています。例えば、市内大神地区では病院へのシャトルバスを走らせて、利便性を高めています。バスの利用という点では、神奈川中央交通株式会社へ、地域における運行経路の検討について要望をしています。すぐに実現できるというわけではないのですが、引き続き、話をしていきたいと考えています。

担当課回答（**集会後、次のとおり担当課に確認しました。**）

まちぐるみ大清掃について

日頃より本市の環境美化に御協力をいただきありがとうございます。
まちぐるみ大清掃は、「ごみのないきれいなまち　ひらつか」を目指し、自治会等の御協力のもとに広く市民の皆様に呼び掛けて実施させていただいています。できるだけ多くの地域の皆様に参加いただくことで、本市における美化意識の高揚と美化活動の推進が図られると考えていますので、周知のチラシや子どもから大人までが参加できる仕組みづくりなど、いただきました御意見・御提案については今後の事業運営の参考とさせていただきます。

（事務担当は循環型社会推進課資源循環担当）

③子育てについて

【参加者】

学校には行きたいけれど、登校できない児童を受け入れる適応指導教室「くすのき」という場所があります。ここに通室した児童は、登校した扱いになります。集団に入っていくことができない児童が増えており、その対応をする職員が足りません。人手を増やすことができれば、必要のある児童の受け入れが進められるし、事細かな対応ができるのではないかと考えます。

【参加者】

「くすのき」という場所をはじめて知りました。私が子育てをしていたときは、カウンセラー室でカウンセラーが対応していましたが、行きづらいように感じました。小学校にも、相談しやすい居場所を作ってくれるといいと思います。

【市　長】

子ども教育相談センターの職員配置については、現在「サン・サンスタッフ（学習支援補助員）、介助員、スクールカウンセラー、ＳＳＷ（スクールソーシャルワーカー）」などの配置を進めています。サン・サンスタッフ（学習支援補助員）は現在１１０人態勢ですが、最終的には１１３人まで増やしたいと考えています。きめ細かな対応をするための適正な職員配置については、教育委員会とも考えさせてもらえればと思います。

また、「こども発達支援室　くれよん」では、支援を要する未就学児の対応をしていますが、就学後の支援が弱くなるという意見を保護者の方から聞いています。昨年から「子ども・子育て推進会議」を立ち上げ、庁内横断的な子育て支援策を講じています。来年度には、支援を要する児童の支援項目をカルテにまとめ、継続的な支援を可能にしていきたいと考えています。

6　市長によるまとめ

本日は皆さんそれぞれの立場から、御意見や御提案をいただき、ありがとうございます。是非とも参考にさせていただきたいと思います。

先ほど（自己紹介の中で)、防犯カメラの話題が出ていました。防犯カメラについては、市内の各小・中学校全てに設置をしていますし、駅前の中心街にも設置があります。平成２９年度からは、各自治会の申請に基づいて、補助制度をする予定です。防犯カメラ設置への補助は神奈川県でも実施しており、市も併せて補助をすることで、各自治会の負担は１０分の１程度になると思います。

防犯カメラについては、度々個人情報の観点から問題になることがありますが、特定の人や物を撮影するというわけではなく、あくまでも犯罪抑止を目的としたものですので、御理解いただきたいと思います。

今後、全国的に人口が減っていく中で、平塚市が持続可能な街であり続けるためには、住んでいる人が住みやすいと感じる街、障がい者や高齢者が生き生きと暮らせる街を実現できなければなりません。魅力を向上するための具体的な施策を進めていきたいと思います。

皆さんにおかれましては、平塚市に住み続けていただき、課題を認識したうえで、問題解決のための御指導御尽力をいただければと思います。本日はありがとうございました。

アンケート結果報告

【アンケート回答数　２０件】

問１　市長の説明や市長との対話はいかがでしたか。

よかった	１０人
まあよかった	９人
どちらともいえない	０人
あまりよくなかった	０人
よくなかった	０人
回答なし	１人

問２　本日の「ほっとミーティング」のご感想について。

・いろいろな分野の参加者より意見を聞くことができ、良い機会でした。
・市長は発言者をしっかり見てメモをとっており、心のある対応だった。
・不登校の児童に対しての情報を得られてよかった。
・いろいろな方の意見を聞けて、とても勉強になりました。
・市民でも市のことをよく知らないことが分かった。課題が沢山あると感じた。
・予想以上に活発な意見交換があり、とてもよかった。
・要望や受身的な考えでなく、主体的に地域についての考えを聞くことができて参考になった。住みよい街づくりに向けた熱意を汲み取ることができた。
・行政の業務だけでなく、自主的な地域での活動も必要であると感じた。
・地域に高齢者が多くなる前にこれからは自分の身は自分で守ることが大切。
・意見や要望があっても、予算等もあるのですぐには難しいと分かった。
・参加者の年齢層が気になりました。
・それぞれの立場で平塚市に対する考え方を聞けてよかった。ただ、テーマをわけていたが、個人の意見が強く表れていた部分については改善が望まれる。
・地域の皆さんの意見を聞くことができてよい機会でしたが、話があちこちにとんでまとまりのないものになった部分があるので、話の進め方にもう少し工夫があるといいと思います。
・話題が広がり、個人の意見をその都度聞くのではなく、テーマに沿って話題をまとめてくれたほうが良かった。
・参加者同士での意見のつぶしあいは本来の目的ではないのではないか。
・参加者が各々自分の言いたいことを言っているだけで、テーマによる話し合いが行われていなかった。進行の仕方は再考すべきと思われます。
・重要な事項にしぼったうえで対応したほうがよい。
・発表者自身がテーマに沿って話が出来ていなかった。